

いけない。「農民の戦略としての屋敷林および畑地における混植」を考慮した改良普及も必要ではないだろうか。これによりセゴニサン政策はその目的がより効果的に達成されると思われる。

【参考文献】 Atmosuseno, Budi Setiawan (1994) Budi Daya, Kegunaan, dan Prospek Sengon. Penebar Swadaya, Jakarta, 143 pp. Departemen Kehutanan, Direktorat Jenderal Reboisasi dan Rehabilitasi Lahan (1989) Rencana kerja pengembangan tanaman *Albizia falcataria* (L) Fosberg di Pulau Jawa dalam PELITA V dan VI. Departemen Kehutanan, Jakarta, 58 pp. — (1993) Statistik (Dalam Angka) Direktorat Jenderal Reboisasi dan Rehabilitasi Lahan tahun 1992/1993. Direktorat Bina Program Ditjen RRL Departemen Kehutanan, Jakarta, 201 pp. HEYNE, K. (1987) Tumbuhan Berguna Indonesia II. Badan Penelitian dan Pengembangan Kehutanan, Jakarta, p.869

---

## 図書紹介

### 東南アジアの植物資源 5 : 用材樹種 (1), (2)

(Plant Resources of South-East Asia 5 : Timber Trees (1) I. SOERIANEGARA and R.H.M.J. LEMMENS (Eds) : Major commercial timbers, 610 pp, Prosea, Bogor, 1994/(2) R.H.M.J. LEMMENS, I. SOERIANEGARA and W.C. WONG (Eds) : Minor commercial timbers, 655 pp, Prosea, Bogor, 1995)

PROSEA (= Plant Resources of South-East Asia) 財団が出版している東南アジアの植物資源に関する手引書シリーズの一部で, (3) M.S.M. SOSEF, L.T. HONG and I. SOERIANEGARA : Lesser-known timbers は未刊である。

(1), (2)ともアルファベット順に配列された属 (Genus) ごとに種 (Species) が記載されている。ただし, 同じ属の樹種を商業的に価値が高いものと低いものとに分けて(1)と(2)に収録するといった仕方は示されていない。したがって, (1)は商業的に価値の高い属, (2)は低い属を扱ったものということになる。おのおの種について記載された内容には当然のことながら精粗がある。すなわち, 情報量の多いものに関する記述は多岐にわたり, 大きいスペースを占めている。しかし, なんといっても便利なのは, ほとんどの樹種に現地名が記されていることである。巻末には主要な樹種の材質についてまとめられた一覧表のほか, 引用文献 (それぞれ 800 篇, 750 篇), 用語解説, 挿入されている図版の出所, 写真の撮影者, アルファベット順に配列された学名と現地名が付されている。ある樹種についての情報のあらしみを知るには手頃な書物と思われる。いずれも邦貨にして 2,200 円ほどである。 (小久保醇)